

教育委員会通信

学校教育係・生涯学習係
☎52-2145

東京家庭教育研究所主催 家庭教育公開講座（富良野会場）
「みつめてみよう！私の子育て」～子供にまなぶ家庭教育～
講師 東京家庭教育研究所 所長 丸山 貴代

- と き 6月28日（火） 受付：9時30分～
- と ころ 富良野文化会館 2階 大会議室
- 後 援 文部科学省、旭川市教育委員会、富良野市教育委員会
公益財団法人日本ユニセフ協会
- 参加料 1,000円（テキスト代ほか）当日徴収します。
- 申込方法 住所・郵便番号・氏名・電話番号を記入のうえ6月15日
までにFAXまたはハガキでお申し込みください。

- 申込み・問い合わせ先
〒070-0832 旭川市旭町2条2丁目9-166
道北家庭教育研究グループ クリーミーママの会
代表 榎本 和歌子 TEL・FAX0166-52-0548

※問い合わせは午後7時以降にお願いします。

東京家庭教育研究所

一人の教育者が一人娘に自殺され、その深い悲しみを自分自身の家庭における子育ての反省として正しい親子関係を探求。研究の末「親が変われば子が変わる」という家庭教育の原理を考え出し、一人でも多くのお父さん、お母さんそして、子供たちに幸せになって欲しいという願いのもと設立されたものです。全国各地で家庭教育の講座などを開催しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 程 表	
9:30	受付
10:00	開演・研修（Ⅰ）
11:35	グループ討議
12:00	昼食 ※各自持参
12:45	研修（Ⅱ）
14:00	休憩
14:30	発表
15:00	閉講式

南富良野町公民館図書室

ところ 保健福祉センター 2階

- ご利用には「図書貸出個人カード」の個人番号が必要です。
- ・お持ちでない方は、保健福祉課の窓口にお申し出ください（平日 8:30から17:15）。
- ・借りたい本（一人5冊まで）を選び、本に添付されている図書カードに個人番号などを記入して、所定の箱に投函します。
- 図書の返却方法
- ・保健福祉センター1階ロビーの返却箱または正面玄関前の返却ポストに投函してください（休館日なし）。

富良野圏域図書館・図書室

富良野沿線5市町村の住民の方であれば、どなたでも自由に利用できます。

開館時間や利用方法は、各図書館・図書室で異なりますので、直接お問い合わせください。

- 市立富良野図書館 ☎22-3005
- 上富良野町図書館ふれんど ☎45-3158
- 中富良野町公民館図書室 ☎44-3005
- 占冠村コミュニティプラザ図書室
・トマム図書室（公民館事務局）☎56-2183

北海道立図書館インターネット予約貸出サービス

道立図書館（江別市文京台東町41）に直接出向いてご利用いただくほか、南富良野町公民館図書室（保健福祉センター2階）を経由して受取り・返却することができます。

- ご利用には事前の手続きが必要です
- ・道立図書館の利用者カード ・パスワード ・申込者個人のメールアドレス
- 利用者カードの申込方法
- ・教育委員会に備え付けの「利用登録申込書」に必要事項を記入のうえ郵送で申し込みます。
- パスワードとメールアドレスの登録方法
- ・「利用者カード」を取得後に、道立図書館のホームページにおいて登録します。
- 詳しくは、道立図書館のホームページ（<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>）をご覧ください。

シリーズ 学校だより ⑩1

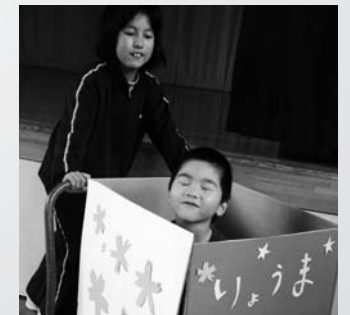
各学校の取り組みを紹介します。



春空に泳ぐ鯉に歓声を上げる下金っ子

空高くはばたけ
こいのぼり・子どもたち
4月26日、地域の方から寄贈いただいた真鯉や緋鯉を学校グラウンドに揚げる「鯉のぼり集会」を行いました。「鯉の大きな鯉のように、元気な子になりたい！」そんな願いをこめながら、みんなで協力し合って、31匹の鯉と六つの吹き流しをロープに取り付けました。「やったー」「上がった」と大空を堂々と泳ぐ鯉を見上げ子ども達は大喜び！
日本の伝統行事にふれる楽しい集会になりました。

去る4月27日に、新一年生に歓迎の気持ちを示す児童集会「一年生を迎える会」を行いました。
新一年生の永井龍馬くんは、五・六年生が製作した「りょうま号」（右写真参照）に乗って入場しました。集会の中では、三・四年生の考えたゲームを楽しんだり、全員で手づくりのプレゼントを手渡したりする場面がありました。
龍馬くんは「みんなと楽しく遊ぶことができうれしかったです。これからも、なかよく遊んでください。」と元氣よく感想を発表することができました。
下金っ子の優しさあふれる集会となりました。



「りょうま号で入場」

南富良野短歌会

雪とかす樹林の中の座禅草日々その輪郭が広がっていく
いずこより来てどこへゆくのか白い鳥閑かに憩う春の湖
被災地に見舞の電話入れて見る家族失い途方にくれてる
百年に一度とう地震のがれきの中生命もやせし梅の幼木
大地震の世にも変わらず春が来て枝にふくらみ芽の満つる
逝きし娘の年を数える春彼岸櫻の枝のふくらみを知る
花曇羽ふるわせて鳴く雲雀東北震災知るや知らずや
山白く暗闇迫る北の丘小雪ちらちら冷え込む弥生
雪消えて畑の光眩しかり倉庫で出番を待つてる農機
わが心諭すが如く暗唱す般若心経ただひたすらに
栄転の人の思いの名残とも新たな芽吹き確かとなりぬ
老いてなお朝なあさなの薄化粧八十路の心ほのと明るむ
七度の干支の兎を呼び戻し月に餅搗く日を迎えたし
冷えた日に命あふれる小鳥達群れをつくりて青空にとけ
春告げるきみどりつぼみの蒔のとう庭に華やぐ日に背伸びして

相川 敏治
阿部 巖
大居 貞子
鍛冶場 渉子
菊池 仁子
後藤 敏江
小林 吉枝
佐藤 すみゑ
柴田 キク
鈴木 文代
津田 みね
橋見 さえ子
三宅 スエ
山内 千代
山田 千代